



江戸時代末期、現在の熊谷市に生まれた荻野吟子は、不慮の病で婦人科の治療を受けたことから女性医師の必要性を痛感して医師になることを目指し、1885（明治 18）年日本初の公認女性医師となった埼玉県を代表する偉人。医療や女性解放運動など活躍し、女性の地位向上や衛生知識の普及に大きく貢献した。

今春行われた撮影では、熊谷市の国登録文化財「坂田医院旧診療所」や「井田記念館」をはじめ、深谷市や群馬県千代田町などもロケで使われ、熊谷市の小学生や市民らもエキストラ参加、映画作りを支援したいとボランティアが集まるなど地域ぐるみで協力した。荻野吟子役を若村麻由美さん、志方之善役を山本耕史さんが演じる。

熊谷ロケーションサービスの大嶋和浩さんは「数々の文献があり小説や芝居化もされているが、これまで吟子の人生の後半部分には少し寂しいイメージがあったと思う。近年吟子直筆の手紙などの研究が進められたおかげで、熊谷を離れた後も郷里に心を寄せていたことや、穏やかな晩年を送っていた様子も分かってきた。映画では新たな一面も発見できるはず」と期待を寄せる。「地域の人は誰もが知っている日常の風景が出てくるのも見どころ」とも。

映画化を記念し、地元ボランティアグループ「阿うんの会」では撮影が行われた「妻沼聖天山」や「赤岩の渡し」「坂田医院旧診療所」など撮影場所を巡る「一粒の麦」ロケマップを作成、試写会当日に配布する。ロケ地の一つで会場近くの「坂田医院旧診療所」は当日限定で一般公開する予定。上映時間は10時30分～、14時～。監督と出演者による舞台あいさつも行われる。料金は、前売り券＝1,400円、当日券1,800円。

映画は、男尊女卑の時代に公許女医第1号として活躍した吟子の一生を通じ、不屈の精神や深い愛を感じてもらおうと企画された。吟子役を若村真由美さん、夫でキリスト教伝道師の志方之善役を山本耕史さんが熱演。10月26日から、熊谷市の熊谷シネティアラ21などで公開される。

撮影は4月13日～5月8日に行われ、熊谷市の児童ら市民もエキストラとして出演している。ロケマップでは、熊谷市の荻野吟子記念館や妻沼聖天山、深谷市の深谷商業高校など県内を中心に13カ所を写真付きで紹介。各シーンの解説や撮影時のエピソードを盛り込み、B4判4ページにまとめた。

同会は今年4月から記念館の指定管理者になり、映画製作にも協力。メンバーの江田一二三さん（67）が中心となって4月から4カ月かけてロケマップを完成させた。

「たくさんの人にロケ地を訪れてもらい、妻沼地域が盛り上がるきっかけになれば」と江田さん。会長の増田哲也さん（73）も「映画を通じて、郷土の偉人を広く知ってもらいたい」と期待を寄せる。

妻沼中央公民館での先行上映会は午前10時半と午後2時の2回。山田監督らが舞台あいさつする。チケットは一般が前売り1400円、当日1800円、小中学生はいずれも500円。当日はロケ地の一つで国登録文化財の坂田医院旧診療所も一般公開され、見学できる。

先行上映会の問い合わせは、現代ぷろだくしょん（電話03・5332・3991）、ロケマップの問い合わせは、荻野吟子記念館（電話048・589・4740）へ。

http://www.saitama-np.co.jp/news/2019/08/27/09_pic.html